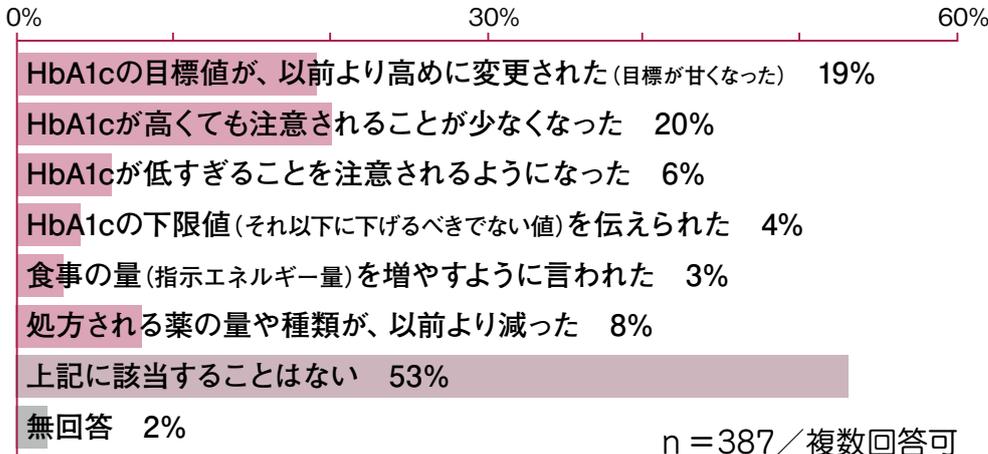


糖尿病患者さんに聞きました

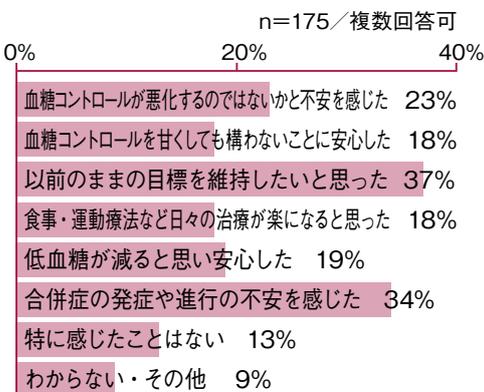
Q. 最近(過去数年の間で)、HbA1cに関する主治医や医療スタッフからの指示や指導で、以下のような変化がありましたか?



血糖管理目標の緩和を表すいくつかの選択肢を用意し、該当するものを複数選択可で選んでいただきました。結果は「該当なし」が53%。つまり半数弱の患者さんが最近、目標HbA1cの緩和につながる指示や指導を受けたということになります。ただ、「該当なし」と答えた患者さんの中にも、実際には目標が緩和されていることに気づいていない方もいらっしゃることでしょう。

これ以降の質問は、「該当なし」と答えた患者さんを除き、何らかの目標緩和策がとられたと回答した方限定でお尋ねしました。

Q. 医師や医療スタッフからそのように指導・注意されたとき、どのように感じましたか?



患者さんは、「治療が楽になる」と捉えるよりも、どちらかという合併症等への不安を感じるもののほうが多いようです。

では管理目標を甘くしてHbA1cは高くなったのでしょうか。

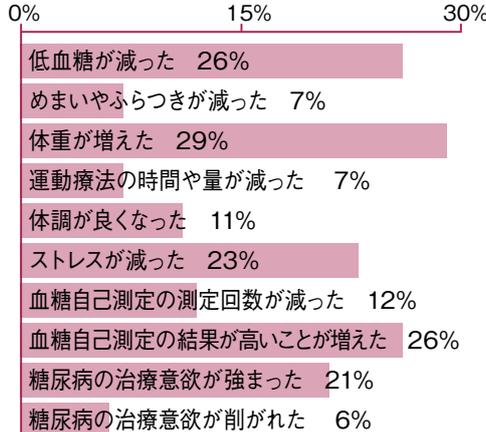
Q. その指導・注意によって、あなたのHbA1cは変化しましたか?



この結果は、医療スタッフへの質問(左ページ)と比較し「あまり変化していない」がやや多いものの、全体的には同じような傾向と言えそうです。

次に、HbA1cの数値上の変化以外に表れた影響を、複数選択可で挙げていただきました。

Q. その指導・注意によって、次のような影響は現れましたか?



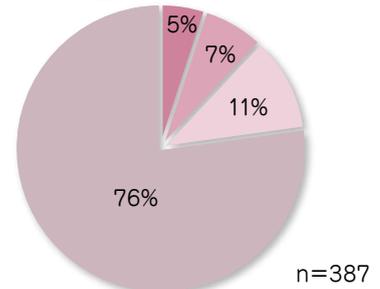
最も多かったのは「体重が増えた」で約3割の患者さんがそのように実感されています。「低血糖が減った」は約4分の1でした。「ストレスが減った」が比較的多かったことも、QOLの観点からは見逃せません。

Q. 「熊本宣言」「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標」の認知度、および以前の「優・良・可・不可」の記憶について。

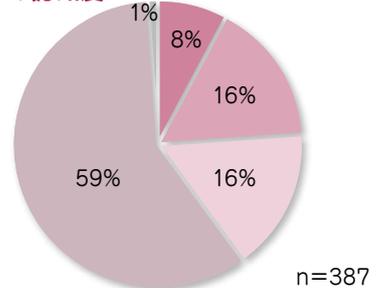
今回のアンケートでは最後に、2013年に日本糖尿病学会が発表した「熊本宣言」と2016年に策定された「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標」を知っているか否か、回答者全員に尋ねてみました。

結果は以下に示す円グラフのとおりで、認知度はまだまだあまり高くないようです。ちなみに、かつて使われていたHbA1c値の「優・良・可・不可」判定については、「内容も詳しく知っている」が16%、「内容の一部を知っている」が24%、「そういう判定方法があったことは聞いたことがあるが内容は知らない」14%、「聞いたことがない」45%でした。

「熊本宣言」の認知度



「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標」の認知度



■ 存在を知っており内容も詳しく知っている
 ■ 存在を知っており内容の一部を知っている
 ■ 名称を聞いたことはあるが内容は知らない
 ■ 聞いたことがない
 ■ その他